

自分事としての テストベッド

名古屋大学
未来社会創造機構

河口 信夫



自己紹介：河口 信夫（かわぐち のぶお）

Graduate Program for Lifestyle Revolution based on Transdisciplinary Mobility Innovation

名古屋大学 工学研究科 情報・通信工学専攻 教授
(未来社会創造機構モビリティ社会研究所 副所長)



TMI (超学際移動イノベーション) 卓越大学院 コーディネータ

自動運転ベンチャー (株) ティアフォー フェロー

NPO法人**位置情報サービス**研究機構(Lisra) 代表理事

総務省**スマートIoT推進フォーラム** テストベッド分科会長

中部地方測量部 地理空間情報産学官中部地区連絡協議会

CODE for Nagoya 名誉代表, UDC2020愛知ブロック 代表



・研究テーマ：ユビキタス・コンピューティング

代表的な成果： HASC コーパス/ツール



駅.Locky

・カウントダウン時刻表アプリ「**駅.Locky**」 (300万人が利用)

・需給交換プラットフォーム/社会活動OS Synerex





個人的なテストベッド構築体験



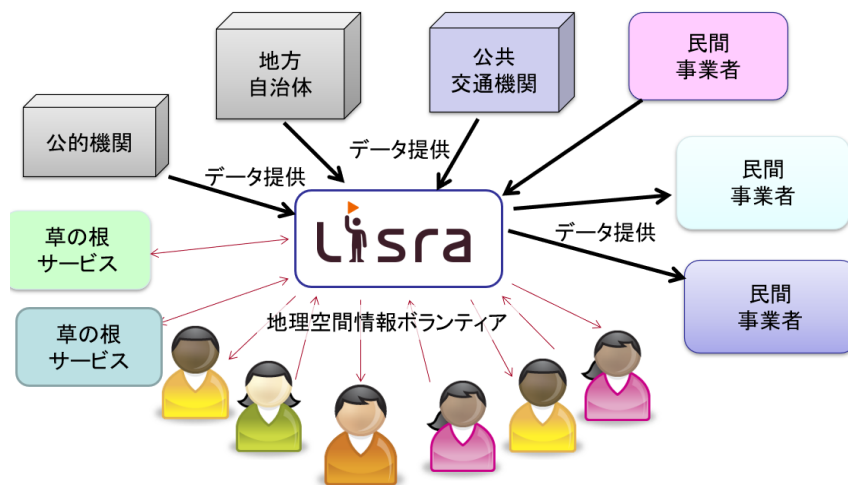
Graduate Program for Lifestyle Revolution based on Transdisciplinary Mobility Innovation

2010年ごろの課題意識

- 実データの重要性がますます高まる
- 大きな課題:
 - ノウハウ・分析技術 = 大学 / データサイエンス
 - IoTツール = ソリューションプロバイダに存在
 - 大規模データ = 現場(クライアント)に存在
- データの場所と、ツールがつかない
 - 両方持っているプレイヤーしか戦えない
- 特に時空間データ(位置+時間)が課題



NPO Lisra の設立 (2012年)



H A S C
Human Activity Sensing Consortium

HASC Challenge 2011～2014



国際会議 HASCA 2013～2022 (継続中!)

現場が**無い**なら自分で作る!

様々な実証実験を企画・実施

- Interop2014 WiFi Location 実験
 - 幕張メッセ
- G空間EXPO2014/2015/2016 実証実験
 - 日本科学未来館
- O2Oデジタルマーケティング研究会
 - 名古屋セントラルパーク(2015～)
- 情報処理学会第79回全国大会(2017年3月)
IPSJ79 スタンプラリー



短期的なエリアデータでは
不十分なことを認識



データ収集基盤の構築



Graduate Program for Lifestyle Revolution based on Transdisciplinary Mobility Innovation

中部おもてなしプラットフォームの構築

セントレア：人流センサ66式



中部おもてなし
プラットフォーム

情報提示
システム

民間

交通
事業者

民間

自治体

異なる人流データ・地理空間
情報を重ねて確認可能

東山動物園：WiFiパケットセンサ33式



名古屋市交通局：WiFiパケットセンサ3式

東海エリア：コミュニティバス
位置+乗降情報 12台



卓越大学院プログラムの支援を活用

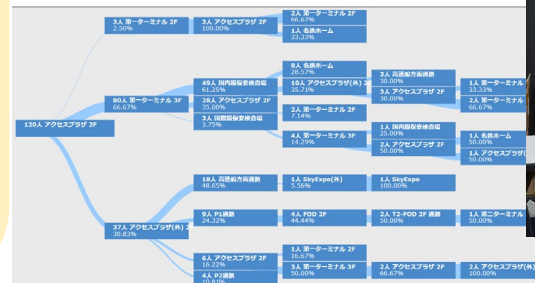
物流テストベッドの構築



倉庫内自動配送実験



人流データ分析

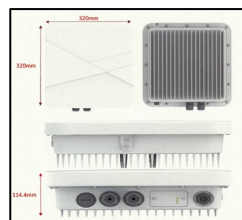




- Robot NEST



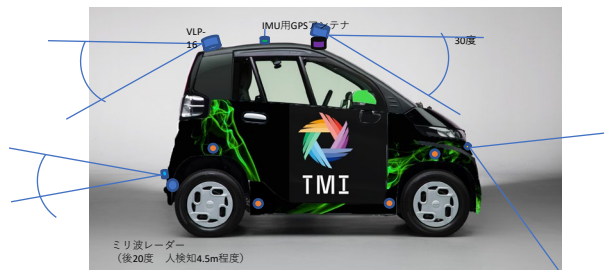
- ローカル 5G



- ・ドローン



- 自動運転



・ **小型EVシェア**





ここまでの経験のまとめ



Graduate Program for Lifestyle Revolution based on Transdisciplinary Mobility Innovation

- テストベッド = いろいろ試せる共有基盤
- 「**みんなのため**」と思っても、結局、**だれも使ってくれない**
- 自分が使いたいものを作るのが一番良い。
(ただし、作るときに「**仲間**」を巻き込む)
- 「**やりたい**」人じゃないと、良いものがないし、
共有する、っていう面倒な作業を乗り越えられない

⇒ もっと「**自分事**」としてのテストベッドを目指そう